

## 米国 この秋にリンゴの豊作が予想される

FreshPlaza 2023年7月20日

米国ではこの秋、かなりのリンゴの豊作が予想される。米国最大の産地であるワシントン州では、年の初めに大変良好な開花が見られた。夏は気温が少し高くなったが、見通しは依然として良好である。ハニーベアマーケティング社のドン・ローパー氏は、「作柄は裏年であった2022年から回復する」と言う(以下「」は同氏の発言)。昨年、ワシントン州は1億箱を出荷し、過去5年間の平均と比べて15%の減となった。「しかし、今年は昨年よりも大幅に増加すると予想している。」出荷量は1億2千万箱近くを見込んでいる。「良好な生育条件に加えて、新しい密植果樹園の成園化によっても出荷量が増加する。」

### 中西部の暑さと干ばつ

ワシントン州とは対照的に、中西部は2022年に豊作年を迎えた。ミシガン州だけで約3千万箱が収穫され、これは2021年のほぼ2倍の量であった。「ワシントン州の出荷量が平均に比べてはるかに低かった昨年、この地域は米国産の供給を支える上で良い仕事をした。」素晴らしい収穫年の後には通常裏年が続くが、中西部全体で多くの新しい密植果樹園が成園化するため、中西部の出荷量は維持されると予想される。「ミシガン州では今年の出荷量が2,800万ないしは2,900万箱近くになる可能性があり、中西部全体で良好な生産が見られる。」最近、中西部は非常に暑く乾燥しており、これが出荷量に影響を与える可能性がある。果樹への給水は主に灌漑に依存している。「現時点では、母なる自然が少しまとまった降雨で助けてくれることが必要である。」

### 東海岸の早期の低温

東海岸では春の半ば(4月下旬)に低温となり、ニューヨーク州東部からハドソンバレーまでの開花に影響を与えた。昨年の東海岸の収穫量は合計3,200万ブッシェル\*であったが、ニューヨーク州の生産者は今年は2,900万ブッシェル強、すなわち約12%(原文のまま)の減少を予想している。「春以来、この地域は生育に適した天候に恵まれており、実際に果実の生産を妨げる問題はない。」

3つの産地の予測量を合計すると、ローパー氏は米国のリンゴの出荷量が昨年より少なくとも10%増加すると予想している。同氏は、まだ生育期間の3分の1が残っており、予測が変わる可能性はあると述べている。

### 価格のデフレ

昨年は米国のリンゴ出荷量が少なかった結果、価格は大幅に上昇した。IRI社(米国の調査会社)のデータによると、2022年の平均小売価格は2021年に比べて15%上昇した。「動かせる荷が少なく、小売業者は販売促進活動をあまり行なわなかった。」しかし、2023年にリンゴの出荷量が増えると、価格競争が激化すると予想される。「販促活動の余地が増え、小売業者は需要供給曲線を機能させる(価格を下げて販売数量を増やす)デフレ戦略を策定するだろう。」

### 新しい梱包設備

ハニーベアマーケティング社は近年、栽培面積の拡大と密植栽培の継続的な増加によりリンゴ園への投資を増やしている。増加する出荷量を処理し、同社の有機リンゴ部門を支援するため、今年に入ってからワシントン州パテロスの新しい梱包施設を買収した。「この施設は、成長している弊社の有機リンゴ事業を支援するために必要な梱包と冷蔵貯蔵の能力の増加をもたらすものである。」

ミシガン州における同社の新しい取組みは、エリートパッキング社との販売契約の締結である。「弊社は、150万箱のリンゴを市場に投入する。彼らはミシガン州産のリンゴを栽培して梱包するが、弊社はそのリンゴをハニーベアのブランドで販売する。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(\*訳注: リンゴ1ブッシェルは38~45ポンド等とされますが、米国リンゴ協会(USApple)は1ブッシェル=42ポンド(約19kg)としています。)